

美濃国守護土岐氏 最後の居館

大桑城

明智光秀も仰いだであろう山城

歴史・登山マップ

岐阜県山県市

岐阜城
↓

室町時代から戦国時代にかけて200余年にわたり美濃国を中心に勢力をふるった守護土岐氏は、天文4年(1535)、長良川の洪水をきっかけに、山県市大桑地区に守護所(守護の居館)を移し、大桑城や城下町を整備しました。

大桑城はその後、斎藤道三に攻め入られて落城し、守護土岐頼芸は美濃を追放されました。大桑城は、守護土岐氏の最後の居館となったのです。

大桑城が築かれた古城山に足を踏み入ると、今なお残る遺構から、要害堅固な山城であったことを感じることができます。そして、山頂から広大な濃尾平野を望むとき——かつてこの地を支配した一族の興亡に思いを馳せることができるでしょう。

山県市には、土岐支流の代表的な武将である明智光秀の「生誕の地」の伝承も残っています。若き光秀も仰いだであろう山城、大桑城は、美濃をめぐる激動の歴史を今に伝えています。

大桑城

古城山

歴史・登山マップ

③ 主郭部

城内で中心となる曲輪で、近世城郭の天守台にあたる場所。



ミニ大桑城

昭和63年に建てられた高さ約3mの模擬天守閣。戦国時代には無かった建物だが、写真映えるスポットの1つ。



大桑城の遺構と山歩きを楽しみたい方

けんきやくコース



山麓の古城山登山口より古城山を登るコースで、大桑城の遺構を見ながら山頂を目指します。ルートの一部に傾斜の急な所があり、距離もあることから、体力に自信のある方におすすめです。

山頂まで
距離 約2.1 km 時間 60~90分

けんきやくコース

山頂からの雄大な眺めを気軽に楽しみたい方

ゆったりコース



はじかみ林道の峠にある登山口より古城山を登るコースです。ルートのは大半は緩やかで、距離も長くないことから、古城山山頂からの雄大な眺めを楽しみたい方におすすめです。

山頂まで
距離 約750m 時間 20~30分

ゆったりコース

急斜面にあるため、訪れる際はご注意ください。



はじかみ林道登山口
(ゆったりコース)

至中洞

はじかみ林道

徒歩約5分

度せるほか、
野などの眺望



— けんきやくコース
— ゆったりコース
— はじかみ林道(市道)

P 駐車場 **♂ ♀** お手洗い

① 番所跡

門や入城者の監視施設があったと考えられる遺構。「岩門」とも呼ばれている。



曲輪

山の斜面を平らにならしたり、削ったりして造られた大小の区画。一部の曲輪からは、戦国時代の陶磁器などが出土しており、屋敷等が建てられた場所と考えられる。
(地図中に示した面状の遺構)

石垣

大桑城では曲輪群の側面に石垣が築かれていたと考えられている。
写真は石垣とみられる遺構。



② 切井戸

古城山腹に位置し、現在も水をたたえている。土岐頼芸が斎藤道三との戦いに敗れ逃げる際、家宝の「金色の鶏」をこの井戸に隠したといわれ、元日の朝にこの井戸から鶏の鳴く声を聞いた者は、長生きできるという言い伝えがある(金鶏伝説)。

豎堀・堀切

敵の侵攻を阻むために、山の側面を掘り下げた溝。
(地図中に茶色で示した堀状の遺構)

古城山登山口
(けんきやくコース)

大型バス駐車可
P

城山展

はじかみ林道のところにあり、古城山全体、伊吹山や濃尾平野の景観を楽しむ。

守護土岐氏と大桑城

土岐氏は清和源氏の流れをくむ、美濃を地盤とした武士の一族です。室町時代初期には、足利尊氏などの信頼を得て美濃、尾張、伊勢の三カ国の守護に任命され、その後は戦国時代にかけて美濃国守護を務めました。

天文4年(1535)、長良川で大洪水が起こり、枝広(現在の岐阜市長良)にあった守護所(守護の居館)が水災により廃絶したことに伴い、大桑に守護所が移され、大桑城や城下町が整備されていったと考えられます。

しかし、守護土岐氏と斎藤道三の戦いが始まり、大桑は戦場と化しました。天文21年(1552)、ついに大桑城は落城し、土岐氏最後の守護・頼芸は美濃から追放されます。ここに200余年にわたり続いた土岐氏の美濃国統治は終焉を迎え、その後の道三は、大桑城を

は終焉を迎えました。その後、道三は、大桑城下の町人を稲葉山城（後の岐阜城）の城下・井口へ移したと伝えられています。

大桑地区には、現在でも戦国時代をしのばせる史跡などが数多く残っており、大桑城跡は標

高407.5mの古城山山頂一帯にあります。 ()内、記号は裏面「大桑城 古城山歴史・登山マップ」
山頂を目指し、古城山登山口からコースを に準ずる

年表 大桑城と守護土岐氏の関わり

年表 大桑城と守護土岐氏の関わり

西曆	(元号)	事項
----	------	----

1519年(永正16年)美濃国守護土岐政房が死去。子の頼武が守護になる

1519年(永正16年)美濃国守護土岐政房が死去。子の頼武が守護になる
1525年(大永5年) この頃から、斎藤道三の父が台頭する

1525年(大永5年) この頃から、斎藤道三の父が台頭する
1532年(天文元年) 頼武が枝広(現在の岐阜市長良)に守護所を置く

1532年(天文元年) 頼武が枝広(現在の岐阜市長良)に守護所を置く
1535年(天文4年) 長良川大洪水で枝広の守護所が水害。大桑城を整備し、守護所を移す

1535年(天文4年) 長良川大洪水で枝広の守護所が水災。大桑城を整備し、守護所を移す
1536年(天文5年) 頼武の弟・頼芸が守護になる

1536年(天文5年) 頼武の弟・頼芸が守護になる
1542年(天文11年) 斎藤道三が太秦へ進攻する(「太秦太乱」)

1542年(天文11年) 斎藤道三が大桑へ進攻する(「大桑大乱」)

1547年(天文16年) 頼武の長男・頼純が死去する
1549年(天文18年) 道三の娘が織田信長に嫁ぐ

1549年(天文18年) 道三の娘が織田信長に嫁ぐ

